

4. 愛知万博の主要事業

< 海上地区 >

愛知万博の原点としての「メモリアル・ゾーン」

海上地区は、愛知万博を構想させた発想の根拠地として、その森のエネルギーを世界へ、そして青少年公園地区へと発信するメモリアル・ゾーンとして、地球市民への深い呼びかけと交流を実現する会場とする。海上地区では、愛知万博のスピリットとテーマ性を象徴的に体現する事業と、市民の主体的な参加と交流を核にした文化プログラムを重点的に展開する。

政府と愛知県の恒久施設

「政府出展施設エリア」、「愛知県出展施設エリア」、両エリアを結ぶ橋は、青少年公園会場から伸びるテーマ軸に直交するランドマーク性の高いポジションにあり、愛知万博の開催精神を未来に継承する施設として、各々の個性を訴求しながらも、調和のとれたコンセプトの下に建設する。

政府出展事業

日本は、亜寒帯から亜熱帯まで、いかに豊かな自然の恵みと多様性に満ちた国であるかを美しく表現するために、自然と調和した存在感のある建築空間を創造する。さらに、来場者の目や心に優しく、自然との一体感を満喫できる「安らぎの場」として、日本人の自然との関わりをアピールするパビリオンとする。

愛知県出展事業

21世紀の地域社会のモデルとしての「エコ・コミュニティ」づくりについて、県民の参加を得ながら、来場者が体感し実感できる形で示し、世界に向けて提案する場とする。

市民交流舞台（協会企画事業）

市民交流活動を支援する展示施設や催事施設、参加体験広場などを協会事業として提供する。市民参加実行組織のもと、市民自らが生き生きとした主体的参加と交流と表現の多様性を実現する。

陶磁器でつくる広場

地元市民をはじめ、日本中、世界中の焼き物の産地とネットワークしてつくる陶磁器広場。ガーデンングやアートオブジェ等を取り入れた変化感のある空間デザインを、政府出展施設及び愛知県出展施設、市民参加施設の外構を含めた海上ゾーンの屋外空間全体で展開する。

「海上地区」展開イメージ



< 青少年公園地区 >

地球大交流を体験するにぎわいのゾーン

青少年公園地区は、国や国際機関、民間企業、市民など多彩な参加者のもと、地球大交流を体験できるにぎわい感あふれるゾーンとして展開する。特に、会場の中核的な存在として「グローバル・コモン」と「グローバル・ループ」を設け、国際博としてのスケール感と来場者の楽しさあふれる体験を演出する。

グローバル・コモン

「地球大交流」を実現するため、公式参加者である国や国際機関が集い合い、国や文化の違いを超えた多彩な交流を行うための共有地として、また、愛知万博のテーマを象徴する新しい地球社会の小さくとも美しいモデルとして、愛知万博の会場をドラマティックに構築する。

グローバル・コモンは、各国、各機関のパビリオン出展のほかに、共通のイベント広場や環境演出を有し、また物販、飲食等の楽しいバザール機能を複合化させ、多様な交流が自由に、自発的に産み出されるようになっている。

コモン(Common): もともとは入会地や共有地や公用地を表す言葉。そこから発展して自然と共生する人間の共同体の意味や共同体が共有する集団意識やライフスタイル(コモンセンス)の意味にもなる。また、都市におけるパブリック・スペースの意味としても使われている。
日本では、里山や鎮守の森などの故郷の原風景となる共同地の意味に重なり、また村や郷などの自然と共生してきた共同体の意味にも連なる。

モジュール形式の出展パビリオン群の構成

国や国際機関の公式出展パビリオンは、18m×18mのモジュールを基本とし、一参加者当たり最大で5モジュールの規模としている。これらのモジュール群が6ヶ所のコモンをそれぞれ構成する。

交流を多彩に育む共通のイベント広場の設定

グローバル・コモンには、公式参加者のための交流広場とイベント広場が準備される。公式参加者のナショナルデーに対応したサブイベントや来場者との交流を目的とした各種のアートパフォーマンスやイベントが賑々しく展開され、グローバル・コモンの活況を生み出していく。

国際バザールの展開

イベント広場と連動して楽しい飲食と物販の店舗群を配した国際バザールを展開する。出展参加国のバラエティに富んだ食文化とライフスタイルを楽しむと同時に、文化を通じた楽しい交流を演出する。

コモンごとの特色ある演出

各コモンは、それぞれの出展参加国、国際機関の特色を活かしながら、コモン全体としての一体的な雰囲気づくりをおこない、変化に富んだ多彩で魅力ある演出を実現する。

「グローバル・コモン」演出イメージ



グローバル・ループ

グローバル・ループは、自然地形との共生を最大限に配慮しつつ、バリアフリーや会場全体のわかり易さ、立体的会場構成を提供し、最先端の都市デザインや機能を持つ空間として計画される。

また、それぞれのグローバル・コモンをつなぎ、「地球大交流」を最も強く体感できる会場の主動線として計画する。

バリアフリーな移動を可能にする。

人にやさしい水平回廊として、多くの高齢者を始め、車椅子でも十分安全に、かつ安心して歩行できる移動環境を提供する。

移動手段の多様性と楽しさを演出する。

移動すること自体が楽しく、またメッセージが体感できるように、ITを活用した未来指向の移動手段を計画する。

パレードやパフォーマンスの多彩な展開をはかる。

会場ににぎわいを与える華やかなパレードや国際色豊かなパフォーマンスが、グローバル・ループを舞台に繰り広げられる。特に、グローバル・コモンに接する広場空間は一番のにぎわいの場となり、グローバル・コモンとグローバル・ループが一体となって盛り上がるよう計画する。

情報サービスと休憩機能の充実をはかる。

来場者が快適にグローバル・ループを巡ることができるよう、一定距離ごとに休憩施設や情報サービス機能を配置し、会場の主動線としての機能性を高める。

新素材や新工法を多彩に活用する。

グローバル・ループは、できるだけ現場工事が少なくなるよう工法等を工夫する。また、さまざまな素材を活用しながら、自然と共生する新しい都市づくりのモデルとしての実験にも取り組む。

「グローバル・ループ」演出イメージ



グローバル・ハウス（協会企画パビリオン）

愛知万博のテーマ「自然の叡智」を具体的に表現する場として、既存施設である愛知青少年公園の「温水プール」と「アイススケート場」の無柱大空間とヒートポンプ機能を活用し、クライマトロン（閉鎖型人工気象室）を有効活用して地球環境の新しい体験空間を演出する。

人類と地球の新たな共生の在り方を目指して、地球の誕生、生命の発生、人間の進化、文明の歴史と興亡、そして新しい文化・文明の創造に向けた大冒険旅行を体験する。

また、グローバル・ハウスはメイン施設であると同時に、博覧会のテーマの解題やオリエンテーション機能も要求されることから、できるだけ多くの観客を受け入れることに配慮する。

ユニークな外観デザイン

会場の中心に位置するランドマーク施設として、博覧会らしいユニークな外観デザインを施し、協会企画パビリオンにふさわしい存在感を創出する。

また、昼でも夜でも会場のどこからでも見えるポジションを生かして、この外観と外構部分を使って、優れた情報発信ができるように工夫する。

「人類と地球との共生」を描く斬新な展示演出手法

温寒空間を自在に移動するための新しいスペース・ビークルや、最先端のIT技術、VR（バーチャルリアリティ）、大型とパーソナルを組み合わせた新たな映像システムなど、斬新な展示演出手法を用いて、「人類と地球の共生」を来場者に印象的に表現する。

産・学・官の先端プロジェクトとの連携

空間演出や展示演出に用いる先端技術の導入にあたっては、産・学・官の先端プロジェクトと連携し、未来に向けた社会実験とPRの場としての役割を具体的に示す。

特に、VR技術、パーソナル通信技術等については、先行的な国や研究機関のプロジェクトと一体的に推進する。

グローバル・ハウス演出イメージ



協会企画催事

協会企画パビリオンを挟んで東側の「大芝生苑」と西側の「こいの池」をそれぞれ用いて、愛知万博のメインアトラクションとなる大規模な空間演出型の協会企画催事を展開する。

サブテーマで掲げる「人生の“わざ”と智恵 (Art of Life)」を反映させると同時に、次代に向けたメッセージ性の強い内容とする。最先端の舞台芸術や演出技術が準備されると同時に、来場者の参加性も高める演出とする。

地球大交流広場（「大芝生苑」）

- 「交流」をテーマとする世界各地の祭りや民俗芸能を、飲食や大型映像装置が一体化してつくりだす祝祭空間で展開する。
- 全会期を通じて多様に発生する交流を多角的に展開するための多目的なイベント空間とし、ベーシックなイベント/ショーや日ごとに変化するアドホックなイベント/ショーを複合的にコントロールする。
- 観客も自ら参加して楽しむことができるようにする。

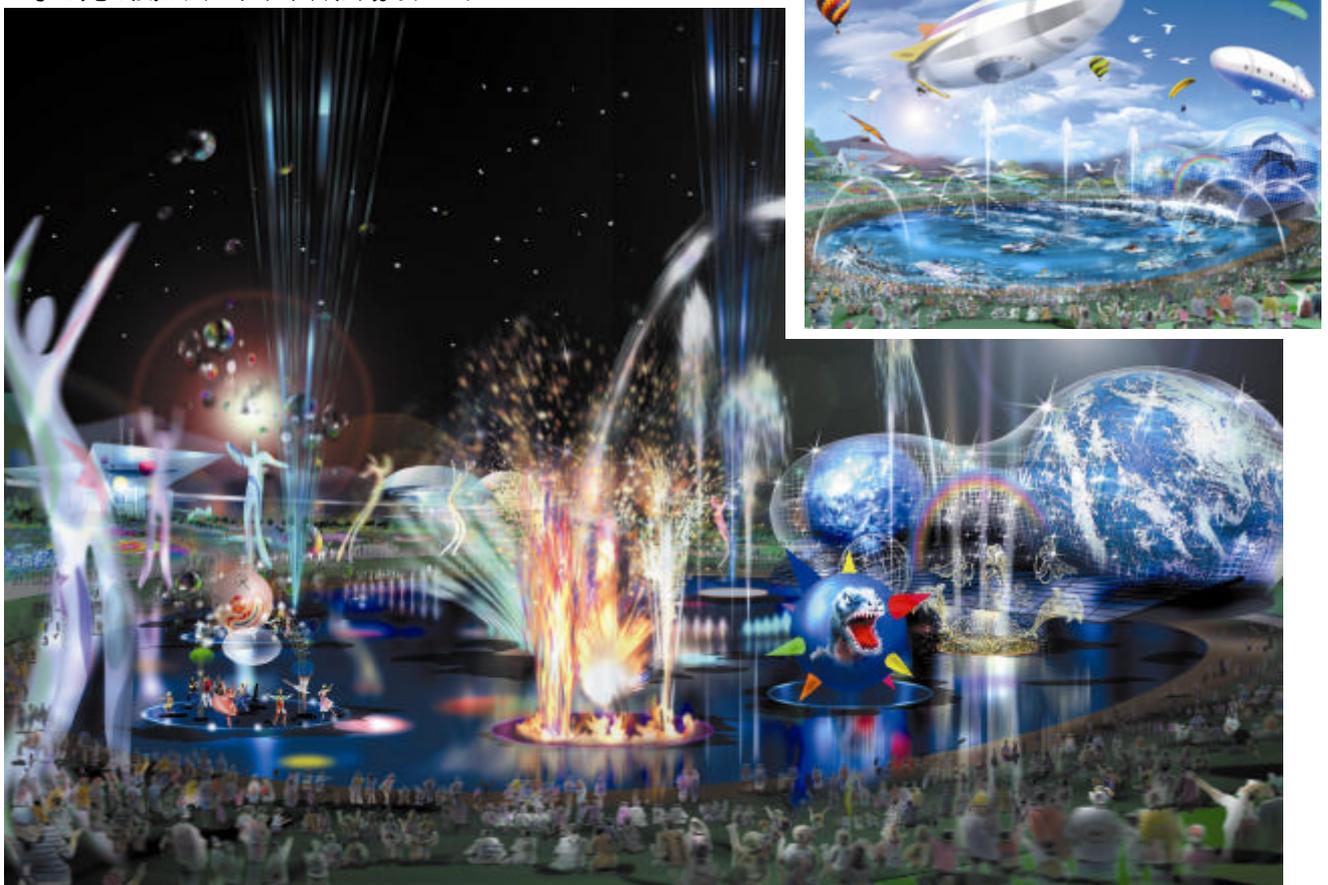
水と光と風のスペクタクル広場（「こいの池」）

- 「水の惑星 = 地球」をテーマに、水のパフォーマンスを最先端の技術と最高の芸術性で演出。また、水上に「水上プラットフォーム」などを準備し、さまざまなアーティストの参加ができるようにする。
- 昼 夕 夜の時間の変化に対応した演出ストーリーを展開する。
- 春 夏 秋の季節の変化に対応した演出ストーリーを展開する。

地球大交流広場イメージ



水と光と風のスペクタクル広場イメージ



日本ゾーン

地球時代に貢献する日本の役割を力強くアピールすると同時に、日本文化の魅力を総合的にプレゼンテーションする場として展開する。

また、来場者をお迎えするホストゾーンとして、次代の日本アイデンティティを再発見、再認識する場となるように、様々な交流と参加体験のプロジェクトを展開する。特に海外からのお客様が心から楽しみ、くつろげるゾーンとして演出する。

日本政府館

「自然の叡智」をテーマとする愛知万博のホスト館として、存在感のある建築空間を創造するとともに、テーマ（自然の叡智）を先鋭的に体現するために、わが国としてどのように環境問題などに取り組んできたのかを世界に向けて示すことを試みる。特に、世界に先駆ける環境産業への取り組みや循環型社会モデルへの積極的なアプローチを訴求する。

また、そのテーマを表面的に捉えるのではなく、先端的情報技術などを活用して、来場者の心に響く心象的な体験を与えると同時に、これをわが国からのメッセージとして発信することを目指す。

愛知・広域交流館、名古屋市館

愛知県、名古屋市及び中部の地元自治体が連携し、地域の独自文化を生かした話題性の高い展示演出によって、愛知県・中部エリア、名古屋市の名を世界にアピールする。さらに、これらの地域が日本と世界を代表する「ハイテクランド」であり、モノづくりと文化を通じた「地球交流圏」を積極的に推進していることをプレゼンテーションする。

催事などの多彩な自治体参加

全国の都道府県からは、パビリオンに限らず、催事による参加など多彩な参加形態と情報発信の手法を検討する。

日本交流広場

日本ゾーンの中に設けた公共空間において、日本の伝統芸能や現代文化を表現する催事と、日本の「味」を楽しむことのできる飲食施設、竹や木などの天然素材を用いた芸術広場などの環境演出を複合的に展開する。

「日本ゾーン」イメージ



地球市民村（協会企画事業）

「地球市民」として、世界的なネットワークで活躍する国際的NPO/NGOの参加を得て、21世紀の地球社会に求められる課題と新たな実践について、幅広い市民や来場者との対話と交流を実現するプロジェクトとする。

緑豊かな森林体感エリアにおいて、自然の環境と一体化した小規模パビリオン（環境共生型の空間建築を予定）や領域型の展示システム、そしてフィールド・ミュージアムやエコ・ツーリズムなどの複合的なゾーン展開を行う。

世界的ネットワークを持つNPO/NGOによる出展参加を促進

森林体感エリアと一体となった領域型（ゾーン）の事業形成

イベント空間やコンベンション機能など共有する交流機能・空間の確保

「地球市民村」演出イメージ



食と農（協会企画事業）

地球と自然の恵みによって生まれる「食と農」の大切さを、参加体験できる事業として推進する。

「食と農」の循環型産業的な未来像を探求すると同時に、文化的、ライフスタイル的な視点からの豊かさや楽しさ、そして面白さを追求する。

「食と農」の展示については、日本の食文化を代表する「お米」や、世界中に多彩な広がりや交流を持つ「フルーツ」をテーマとするなど、意外性や不思議さ、芸術性などを重視した新しい展示手法を駆使した展開とする。

国や都道府県、関係機関、関係団体、食品メーカー等の複合参加事業として推進する。日本ゾーンとの一体的な展開も視野に入れて推進する。

「食と農」展開イメージ



遊びと文化 - 創造力遊園地 - (協会企画事業)

遊びが人間の創造性を生き生きと育むことを、子供も大人も体験学習(ラーニング・エクスペリエンス)できる「遊びと文化」の交流ゾーンを、産・官・学のコラボレーションによって多彩に展開する。

既存施設である「愛知県児童総合センター」や「愛知国際児童年記念館」の建物を活用すると同時に、周辺エリアに仮設建築によるパビリオンや屋外展示空間を複合化させて、テーマ性の高いゾーンを構成する。

また、この「遊びと文化」ゾーンでは、様々なテーマや切り口の事業展開が想定されると同時に、期間限定での展開も考慮する。固定した遊具装置だけで185日間を演ずるのではなく、1ヶ月や2ヶ月間等のタイム・シェアード型の事業を多彩に推進することで、様々な交流と参加体験の場面を広げる。

展開テーマとしては、「ロボット」「コミュニケーション」「健康スポーツ」「クラフト」「水」「3R社会」などが考えられる。

「遊びと文化ゾーン」展開イメージ



ゲートシティ

愛知万博を訪れる全ての来訪者は、ここから「地球大交流」の旅と冒険をはじめめる。

単なる入退場のためのゲート機能だけではなく、グローバル・ループへのアクセスポイントでもあり、万博情報や各種のサービスを高度なレベルで受容できるマルチな都市交流空間として計画する。

また、このゲートシティには、協会の高度な管理機能や本部機能、国際博覧会に相応しい接遇機能や空間が複合化されるほか、博覧会に関連する各種の交流（展覧会、シンポジウム、会議など）を実現するためのコンベンション施設やギャラリー空間が準備される。

「ゲートシティ」演出イメージ

